



檜谷棚田

大洲市戒川・天空の隠れ里

令和 8 年度 棚田オーナー募集

棚田オーナー制度とは？

- ①希望者は年会費を払って、棚田オーナーとすることができます。
- ②オーナーは、田植え・稲刈りなどの農作業に参加したり、棚田の景観や自然、生産者との交流を通じて、リフレッシュすることができます。
- ③オーナーは収穫された棚田米や、地域の野菜・果物をうけとることができます。
- ④オーナーの支払う年会費が、生産者の所得や保全活動資金として活かされることによって、棚田保全に役立ちます。

棚田オーナー制度は、全国 100 ヶ所以上で実施され、棚田保全の効果的な仕組みとして定着しています。檜谷棚田では平成 28(2016) 年から実施され、[愛媛県「ちょこっと体験！まるごと収穫！」オーナー制度](#)に登録される唯一の棚田オーナー制度となっています。

檜谷棚田保存会・大洲市

令和8年度 榎谷棚田 オーナー 募集要項

趣 旨	大洲市戒川地区では、榎谷棚田保存会が中心となって、「榎谷棚田」の保全・活用及び地域づくりに取り組んでいます。しかし、高齢化、担い手不足の進行により「榎谷棚田」の存続が危ぶまれていることから、棚田を愛するオーナーを募集して都市との交流を促進することにより、地域の活性化と「榎谷棚田」の保全を図ろうとするものです。
所在地	愛媛県大洲市戒川「榎谷棚田」
実施主体	榎谷棚田保存会、大洲市
募集会員	棚田オーナー会員、棚田トラスト会員
募集期間	令和8年3月22日～4月4日 ※棚田オーナーの申込が募集数を上回った場合は、抽選で決定します。
申込方法	申込書に必要事項を記入し、郵送、Fax、Emailでお申し込みください
	 メール  ホームページ
お申込み お問合せ	詳細については下記にお問い合わせください。 (1) 申込 〒795-8601 愛媛県大洲市大洲690-1 大洲市農林水産部農林振興課 TEL0893-24-1727(直通) Fax 0893-24-1350 (2) 全般 〒799-3421 愛媛県大洲市戒川甲2109 榎谷棚田保存会 TEL090-2789-1987(城本) TEL080-1525-8306(大崎)



棚田オーナー会員

年会費	オーナー田 1 区画 (100 m ²) 33,000 円 (R8 年度より改定しました)
募集数	5 組 (500 m ²) 程度 今年度オーナー田として 40 区画を予定していますが、前年から継続されるオーナー様がおられるため残余区画が募集数となります。申込者が募集数を超えた場合は抽選で決定します。
応募資格	(1) 檜谷棚田の保全に共感できる方 (2) 美しい自然と共生し、里山の暮らしを体験したい方 (3) 農作業を通して生産者との交流を深めたい方
特典	(1) 農作業体験ができます ・ 田植え [6 月 6,7 日]、稲刈り [9 月 26,27 日]、1 日選んでいただきます ・ オーナー 1 区画 10 人までご参加いただけます。 ・ 農作業体験はオーナーさんの自主的・主体的な活動としますが、地元農家やお手伝い隊が作業の指導や援助を行います。 (2) 棚田米 (玄米 25kg) をお届けします。 (3) 大洲産の野菜と果物をお届けします。 (4) 農作業体験日におやつプレゼントがあります。 ※食事は各自ご用意ください
マイ田圃	1 区画 100 m ² の広さは 4 ~ 5 人以上で作業する広さになります。

棚田トラスト会員 (棚田保全のためにご寄付いただける方)

年会費	1 口 1 万円
募集数	17 口程度
特典	棚田米 (精白米 5kg) をお届けします。

棚田へのアクセス

棚田へのアクセスは、オーナー各自でお願いします。田植え・稲刈り体験時は、1 オーナーにつき 2 台まで駐車スペースを用意します。3 台以上のお車は旧戒川小グラウンドに駐車し、オーナー各自で送迎をお願いします。



檜谷棚田とは？

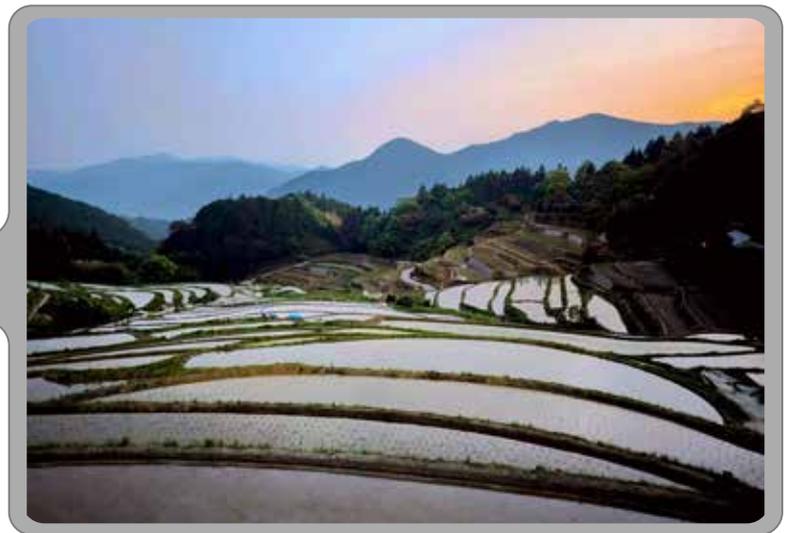
大洲市の檜谷棚田は、12年前までは一部の写真愛好家以外には知られていませんでした。

2012年春に、中島峰広さん（元棚田学会会長・早稲田大学名誉教授）が訪れ、その景観の素晴らしさを推奨したことから、知られるようになりました。

- ・ 所在地、愛媛県大洲市戒川
- ・ 肱川下流域の最高峰 = 壺神山 (971m) の西面標高約 470 ~ 520m(標高差約 50m、東西幅約 250m 平均斜度 20%) に位置し、すり鉢状の地形が、立体的な奥行きのある景観を造り出しています。
- ・ 面積約 3ha、総棚田枚数 257



令和4年、檜谷棚田が農林水産大臣から「つなぐ棚田遺産」に選定されました



あなたも棚田オーナーに

棚田は、先人の知恵と工夫で築き上げられた産業遺産です。

棚田は、日本の原風景ともいわれ、その景観美は人の心を和ませてくれます。

棚田は、洪水調節や生物多様性を保持する機能をもっています。

棚田は、米の生産という本来の役割に加えて、多忙な日常生活で失いがちな人間性やゆとりを回復する力をもっています。

棚田オーナー制度は、このような棚田を社会全体の財産と考え、みなさんの協力で保全していこうというものです。

自然の中で稲作の苦勞と収穫の喜びを体験しましょう。愛情を注いで育てたお米はこのうえなく美味しいはずですよ。